

平成 28 年度 第 1 回中部森林管理局保護林管理委員会議事概要

開催日時 及び場所	平成28年5月24日（木） 13:00～ 15:00 中部森林管理局 大会議室
出席委員	植木 達人 （信州大学農学部 教授） 委員長 生方 正俊 （森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部 部長） 奥 敬一 （富山大学芸術文化学部 准教授） 小宮山 義光 （日本野鳥の会長野支部 幹事） 西條 好迪 （自然学総合研究所 理事長） 竹中 千里 （名古屋大学大学院生命農学研究科 教授） 由井 正隆 （長野県木材協同組合連合会 理事） 委員8名中7名出席 （五十音順）
議 題	（1）中部森林管理局保護林再編検討素案について ア 保護林再編の考え方について イ 保護林再編に向けたスケジュールについて ウ 保護林の再編検討素案について （2）木曾生物群集保護林復元部会について
概 要	○ 議題（1）について <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護林再編の考え方とスケジュールは、案のとおり了承された。保護林の再編検討素案に対する意見等を踏まえ、事務局で再編案を整理することとされた。 【主な意見等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 希少個体群保護林の面積要件（5ha）について、科学的な根拠を教えてください。 ・ 現在の御岳特定地理等保護林は、アオモリトドマツやシラビソ、シラベの垂直分布帯を構成し、コマクサの群落や、ライチョウの生息がある。生物群集保護林よりも森林生態系保護地域としたらどうか。 ・ 現在の赤谷コナラ等林木遺伝資源保存林は、コナラ林を将来に渡って維持していくために、手を加えていくことができると考えてよいか。 ・ 戸隠一帯には 100 種類の鳥類が見られ、戸隠森林植物園内では 60 種類の野鳥が繁殖している。多様性のある戸隠の森を保護林として守ってほしい。 ・ 現在の鍋倉山郷土の森一帯は、イヌワシをはじめ貴重な動植物の生息・生育域の一部として保護していくことができないか。 ・ 現在の金峰山カラマツ植物群落保護林は、単体では 1.52ha と小さいが、カラマツ天然林として非常に大切であり、近くの保護林と合わせて保護したらどうか。また、現・佐渡山スギ植物群落保護林も小面積であるが、豪雪地帯の天然林として貴重であり、これも保護すべきではないか。 ・ 現在の小浅間カラマツ林木遺伝資源保存林は、カラマツの純林という観点からの浅間山生物群集保護林として統合しないほうがよいのではないか。 ・ 保護林の名称は、どのような考え方のもとに決めるのか。 ・ 現在の称名滝特定地理等保護林の再編案は自然維持タイプになっているが、観光地であることから森林空間利用タイプがふさわしいのではないか。 ・ 現在の愛本ウラジロガシ等植物群落保護林は、富山県の自然環境保全地域に指定されており、民有林と合わせれば 10ha を超えるので、保護林として維持すべきではないか。 ・ 菅平や水木沢の現在の郷土の森は、地元自治体の意見をよく聞いて再編案を検討されたい。 ○ 議題（2）について <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。